

「伎楽面」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（彫刻） 昭和 53 年 3 月 24 日
- 所 在 地 千曲市大字八幡字社地 3012-2 武水別神社
- 所 有 者 武水別神社
- 概 要 金剛面（開口）及び、力士面（閉口）共に一材から彫成。
面部を朱漆で彩色、眼は彫眼で瞳は彫り抜き、他は金色。
- 寸法 金剛面 丈 33.5cm 面幅 22.0cm 耳張り 26.8cm
面奥 21.0cm 厚み 1.8～2.3cm
力士面 丈 32.5cm 面幅 22.0cm 耳張り 26.1cm
面奥 22.0cm 厚み 1.0～1.8cm
- 時 代 平安時代末から鎌倉時代と推定
- 公 開 社宝のため非公開

武水別神社は、旧来「八幡宮」と称し、同社には古くから大祭として「大頭祭」が行われていますが、この大頭祭の治道面（夜練りの露払い）として用いられてきたものです。

この2面は、伎楽面の金剛・力士面です。伎楽は奈良時代に日本にもたらされたもので、天平勝宝4年（752）の東大寺大仏開眼供養の際、法楽として伎楽が興行されたことが有名です。その後も京都や奈良の諸大寺でも伎楽が演じられていましたが、今日では伝承が途絶えています。元来伎楽は、野外演劇であるため、面も舞楽面に比べて大型で奥行きが深くなっています。武水別神社の面は、のちに使用のために頭頂後部を削り取ったものです。

現在、大頭祭の夜練りの時に使用されています。

